

### 第3回富士見市生涯学習推進市民懇談会 会議録

日時 令和元年7月19日(金) 13:30~15:00  
場所 鶴瀬コミュニティセンター第3集会室  
出席者 ○市民懇談会参加者

本間	関根	新井	中江	田屋	瀬戸
欠	○	○	○	欠	○
上川	永井	搦木	小栗	猪俣	大下
○	欠	欠	欠	○	○

○事務局

【地域文化振興課】 中嶋課長、佐藤主査

【生涯学習課】 加治主査

#### ◇議 事

計画の評価を行う今後の流れと、事業一覧の資料について、事務局より説明。

参加者) 生涯学習に関する市民アンケートを実施するとのことだが、どのような人を対象とするのか。

事務局) 回答者については、各年齢層から意見が取れるよう抽出をかけ行っていく。文化芸術でアンケートを取った際は、18歳以上の無作為抽出とし、男女比と地域について条件をつけて行い、回収率は26%であった。

参加者) 計画の評価を行う際、まずは事業の評価を行っていくとのことだが、事業を所管している担当課や当懇談会の評価も必要だが、実際に事業を行った市民の評価がとても大事ではないか。そのため、アンケートの聞き方が重要になると思われる。

事務局) アンケートの設問や項目については、案を事務局で作成し、当懇談会に諮る予定であり、設問での言葉の使い方は、市民として感じている部分を聞き出せるよう、配慮する。

参加者) アンケートの無作為抽出だと、高い回収率を得ることは難しいかもしれない。できるだけ多くの意見を取り入れることを考えるのであれば、ホームページを使うことなども有効ではないか。また、アンケートに答えてくれる人たちに焦点をあて、配布しても良いのではないか。

事務局) 市内公共施設にアンケートを設置し利用者にもお願いできると考えている。

参加者) 市民大学やコミュニティ大学などの団体の協力もよい。

参加者) 広く大勢の方の意見をきくことが望ましいが、無作為抽出だと限界がある。

参加者) 回答率を高めるのではなく、年代を幅広く取ることが目的である。実際の利用者や団体だと、現在の意見や結果になる。先ほど、アンケートでは20代の意見が少ないとのことだった。生涯学習は「シニア世代の方のもの」というイメージが先行しており、馴染みがないのかもしれない。実際、生涯学習

として捉えられる子どもフェスティバルには、多くの若い世代が参加しているが、「子どもフェスティバルに参加していますか」は○と答えても、「生涯学習の事業や活動に参加していますか」は答えない可能性がある。若い世代にも「生涯学習の当事者だよ」ということを、伝える必要があるのではないか。

事務局) 若い人の意見を取り入れることも大切であるため、集計方法も含め検討していきたい。他の市町のアンケートをみていると、「生涯学習に対するイメージは？」というのを聞いている自治体もあった。

参加者) アンケートに答えてくれる層がどの程度いるのか疑問。「生涯学習」という言葉が、どの程度浸透しているのか考えてしまう。

参加者) 事業の積み上げを行っている表について、事業名だけでなく、参加状況など規模が分かる形が示されないと評価が難しいのではないか。

事務局) 前期5年分の事業シートは担当課より提出いただき実績は把握しているが、内容量が非常に多いため本日配布した一覧には反映していない。また、後期の平成28年度からの実施事業の照会もこれからかけていくため、この照会に合わせて、これまでの事業評価を担当課にさせていただき、前期・後期合わせた事業実績・評価を市民懇談会の場に示していきたいと考えている。

参加者) 生涯学習の先進的な自治体はあるのか。

事務局) 突出している自治体は把握していないが、当市の場合を考えると、1,000以上のサークルが活動している。この数字は、かなり多い数だと認識している。

参加者) 生涯学習が実態とかけ離れている部分がある。地域の子育てサロンは行っているけど、「生涯学習は知らない」という人が多いのではないか。

事務局) 新しい計画を作る時のキーワードとして、共有できる文言を使用するよう心がけていく。

参加者) 現在の計画をみると、基本理念が長すぎるように感じる。わかりやすく、コンパクトにできると良い。子フェスなどが、一事業ではなく生涯学習の一環としてわかるような書き方にできるとよい。

事務局) 実体験とつなげることが大事で、行政としては包括的にやる傾向があるが、できる限りわかりやすく、市民に伝えつなげていくことが非常に重要と考えるため、その方向で進めていく。